

長尾半島のトビカズラ生育調査

宮本博文・溝口雅貴

はじめに

トビカズラ *Mucuna sempervirens* は、マメ科トビカズラ属に分類される常緑つる性植物で、原産国は中国である。熊本県山鹿市菊鹿町相良のアイラトビカズラは樹齢千年とも言われ、1952年に国の特別天然記念物に指定されている。2000年に九十九島のトコイ島でも発見され、その後、久留米市と天草市でも確認されている。2007年12月に長尾半島公園のオープンとともに、九十九島のトコイ島産のトビカズラの苗木4株が公園内のパーゴラに植栽された。この4株について2008年から継続して調査を行っている。

①長尾半島のトビカズラ生育調査

材料と方法

生育に関する調査としては、当初はつるの垂直方向の生長を毎月計測していたが、パーゴラの天井に到達した2012年度からは、つるの根元にテープでマーキングし、その部分の直径を計測している。昨年よりA株とD株は測定位置のテープを紛失しているため、A株とD株は測定位置を写真として保存し、写真と比較しながら計測を行った。今年度は、年4回の頻度でつるの直径を、ノギスを使って0.1mmの精度で計測した(図1)。株は、長尾半島公園のパーゴラの入口に近い方から順にA株、B株、C株、D株とした。

結果

計測の結果は表1のとおりである。B株については、夏季からトビカズラのつるや葉などが生い茂っており、8月、11月、2月は計測ができなかった(図2)。差はあるが、すべての株のつるの直径が太くなっていた。2月に測定に行った際に、A株、C株、D株に花芽を確認した。花は全ての株で確認できたが、A株は特に多いように感じた(図3)。B株の花は他の株に比べ少なかったが、枝葉が最も生い茂っていた。2020年3月11日に長尾半島C株で開花を確認しており、例年よりも早い開花となった(図4)。

また、2019年4月28日にトコイ島へ上陸し、トビカズラの様子を確認した。トコイ島を覆うように葉が生い茂っており、花も多数確認することができた(図5)。この時、同行していた沖縄大学の研究グループが、トビカズラの蜜をネズミが舐めた跡を確認した(図6)。

表1 トビカズラ4株の根元の直径の計測結果

計測年月日	A株	B株	C株	D株
2019.5.2	70.9	24.0	24.8	28
2019.8.7	71.0	計測不可	24.8	31.3
2019.11.20	71.7	計測不可	25.1	32.1
2020.2.26	72.0	計測不可	25.1	32.5

(単位: mm)



図1 長尾半島D株の測定の様子 (2019. 8. 7)



図2 長尾半島B株の根元の様子 (2019. 8. 7)



図3 長尾半島A株の花の様子 (2019. 5. 2)



図4 長尾半島C株で開花確認 (2020. 3. 11)



図5 トコイ島の開花の様子 (2019. 4. 28)



図6 トコイ島のネズミによる盗蜜跡 (2019. 4. 28)